

令和4年3月11日

枚方市教育委員会教育長

枚方市立五常小学校  
校長 榎 正文

令和3年度学校評価報告書

1. 学校教育目標

- ・確かな学力の定着と主体的・意欲的に学習しようとする態度の育成を図る。
- ・校名・五常(仁・義・礼・智・信)の精神を生かし、豊かな人間性を培う。
- ・心身の健全な発達を図り、最後までやりぬく気概を養う。

《めざす子ども像》 **よく学び 思いやりある たくましい子**

2. 学校経営方針

本校教育の推進にあたっては、生涯を通じて自らの成長を図り、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成をめざすことを基本方針とする。そのために、基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲をもち、主体的に考え、判断し、行動する力を育てる教育を推進する。また、人を思いやる心や人の痛みを自分のこととして受けとめることのできる豊かな人権感覚を育て、個性を生かす教育の充実に努めるとともに、将来、国際社会に貢献できる人物の素地育成にあたる。

### 3. 本年度の取組内容及び自己評価

基本 方策	項 目	・本年度の重点目標	○具体的な取組内容 (◆活動指標・成果指標を含める)	□取組内容の自己評価
確 かな 学 力 と 自 立 の 力 を 育 む 教 育 の 充 実	校 内 研 究	校内研の考え方をすべての教科で活用し、ゴールとつけた力を明確にした単元計画・授業に取り組む。 Hirakata 授業スタンダードの徹底	○低中高ブロックで研究授業 ◆成果指標 教員アンケート 「国語の研究を他教科へ展開した」 95% ◆成果指標 児童アンケート 「めあてをしめている」98% 「ふりかえりを行っている」95% 「話し合いて自分の考えを深めた」 95% 「自分の考えをよく発表した」 80%	「他教科へ展開」 91.7% (未達)  「めあてを示している」 96.5% (未達) 「ふりかえり」 96.3% (達成) 「話し合い」 92.4% (未達)  「発表した」 69.5% (未達)
	基 礎 基 本 の 徹 底	漢字・計算の基礎基本習得 組織的な実施	○宿題は漢字・計算・音読 ◆水曜朝学習は漢字タブレットドリル 学期に1度以上の定期モニタリングを実施し、施策の実施状況を個々の教員と組織で把握、自己改善サイクルを確立する。 ◆成果指標 学期末漢字50問3回 平均点85%	1 学期 学校全体 86.5点 (達成) 2 学期 学校全体 87.8点 (達成)
	I C T	タブレットの有効活用	○◆毎週水曜 朝学習でのドリル活用。 タブレットドリルやロイロノートなどを活用した宿題を出す。 ◆成果指標 学校生活アンケート 「授業でタブレットをよく使う」90% 「宿題でタブレットをよく使う」75%	「授業でよく使う」 94.0% (達成) 「宿題でよく使う」 75.2% (達成)
	外 国 語	リスニング・コミュニケーション 力の向上	○フォニクス 会話の訓練を中心に授業を組み立てる。基本的な単語・語彙の反復練習 ◆成果指標 UNIT 会話の往復数、% 目標 5年3往復(児童の90%) 6年5往復(児童の90%)	5,6 年児童のうち 93% (達成)

豊かな心と健やかな体を育む教育の充実	学級経営	学級経営を見える化し、教員が自己点検するシステムを確立する	○◆Q-U(2回)と学校生活アンケート(4回)を活用、見える化し自己点検する。 自己点検によりUDを徹底する。 ◆成果指標 児童アンケート 「授業に集中できる」95%	「授業に集中できる」 88.3%(未達)
	体力	基礎体力・持久力の向上	○◆毎回の授業に基礎トレーニングを入れる なわとび 持久走 の奨励 ◆学期に1度以上の定期モニタリングを実施し、施策の実施状況を個々の教員と組織で把握、自己改善サイクルを確立する。 ◆成果指標 全国体力テスト RI比スコアの向上	男子総合 50.2(達成) 府 49.0 国50 (RI 49.5) 女子総合 47.3(達成) 府 48.5 国50 (RI 43.7)
	教職員の資質	U-3研修 人権・QU・外国語・道徳研修 服務研修	○◆教職経験3年以下の者を主な対象者として、身近な教育問題について年3回程度研修会を開催する。 ○◆左記研修を行う。	予定通り開催した。(達成)
学びのセーフティネット	生徒指導	生徒指導事案の学年(主任)中心の取り組みを徹底	○◆管理職への即時報告、毎月の生指・虐待事案報告(共有) いじめアンケート年3回実施。実施後、担任及び生指主担者が状況把握 ◆成果指標 不登校の新規発生数 昨年(3名)から減少 ◆成果指標 児童アンケート 「学校が楽しい」 95% 「自分の考えをよく発表」 80%	今年(2名) (達成) 「学校が楽しい」 91.4%(未達) 「自分の考えを発表」 69.5%(未達)

※必要に応じて欄を増やしてください。

※基本方針については、枚方市教育振興基本計画(令和2年9月計画見直し)を参照のこと。

※項目については、文部科学省学校評価ガイドライン(改訂)の内容を参照のこと。

#### 4. 学校教育自己診断の実施状況

学校教育自己診断の結果と分析
<p>① 実施時期[令和3年11月]</p> <p>② 対象[保護者・児童・教職員]</p> <p>③ 結果から特記すべき事項と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「意見や考えの発表」(高学年)のポイントが大幅に伸びている。日々の授業の取り組みとこの3年間の「言語活動を通じた授業デザインの校内研究」が奏効したことが考えられる。</li> <li>・自主的に宿題をしているがIOP以上低下している。塾や習い事などの家庭生活の忙しさに関係があるのかもしれない。宿題(学習)の個別化・効率化の課題ととらえ、今後の学力向上策に生かしていく。</li> <li>・特に低学年で学級内の規律等にやや課題があるととらえられる。これらは既に学校全体の課題ととらえ対処している。</li> <li>・低学年の意見や考えの発表が昨年よりIOP低下している。本来高くなる1,2年生が低くなっていることから、これも課題とする。</li> <li>・児童の読書時間が短く、その時間の増加を課題とする。本を好きになり多く読んでもらうべく、対策を考え、図書ボランティアなど、保護者・地域の協力要請も検討する。</li> </ul>

5. 学校評議員制度及び学校関係者評価委員会、学校運営協議会等の運用状況

学校評議員及び保護者、学校運営協議会委員からの意見内容等

<日時 令和3年7月15日> 協議会形式 個別

○氏名 窪田哲也・磯部智子・宮川 満・萱原育代  
学校 榊正文 大寄歩

○意見を求めた事項

- 1 令和3年度の五常小の体制・方針について
- 2 コロナ対策他学校の現状、今後の取り組みについて

○意見の概要

- ・年度早い時期に学校運営協議会を設け、地域コミュニティ役員会にて全体周知及び学校からの協力要請をしてほしい。
- ・現行の学習指導要領に則った授業展開がされており、子どもたちに力がついてきている。
- ・学校ブログが頻繁に更新されているので、日々の学校の様子がよくわかる。  
交換授業を行っており子どもの情報を複数で共有していることが良い。
- ・懇談時に子どもを待機させる場所を作った方が良い。

<日時 令和3年12月24日> 協議会形式 個別

○氏名 窪田哲也・磯部智子・宮川 満・萱原育代  
学校 榊正文 大寄歩

○意見を求めた事項

- 1 令和3年度五常小の運営の進捗、学力の状況について
- 2 来年度の学力向上策の素案について
- 3 コロナ対策他、学校の現状について

○意見の概要

- ・来年度からの学力向上策については、四中校区で揃えたほうがよいのではないか。  
(同趣旨で、四中校区ブロックでの情報共有はなされているかという質問があった)
- ・家族にカゼ症状があれば登校できなくなるので、ハイブリッド授業を再開してほしい。
- ・外部からの出前授業については、児童の発達段階に応じて行ったほうが良い。
- ・コロナや個人情報保護などにより近年しにくくなった保護者同士の連携の課題がある。
- ・ブログの「学校への提言・意見」コーナーは、率直な保護者の声を聴けるので良い取り組みだ。

<日時 令和4年3月4日> 協議会形式 個別

○氏名 窪田哲也・磯部智子・宮川 満・萱原育代  
学校 榊正文 大寄歩

○意見を求めた事項

- 1 令和3年度五常小の運営の進捗状況について
- 2 来年度の学校経営方針案について
- 3 コロナ対策他、学校の現状について

○意見他の概要

- ・サポーターが教室に入ることによって保つというよりも、学習規律は最初が肝心で年度当初から取り組むべき課題である。
- ・支援学級の在籍児童に学テを受けさせないということがあるのか。中学のチャレンジテストを例にすると、受験(評定・内申書)のことがあるので成績についての見方が非常にシビアになる。
- ・市人権基本計画が6月発効予定だが、市の人権のレベルを上げていくには学校教育が重要で、そのためにはとりわけ若い教職員の人権感覚の涵養が大切である。

・保護者が登校につき添った時に、低学年ではできれば校門から教室に向かうところまで保護者が見届けるべきではないか。校門監視役としては、できる限り注意して見守るようにしている。

・学校への必要な支援については、実現可能なことは地域コミュニティが役に立てればと思う。現在コミュニティが貢献している内容と学校のニーズをまとめて示した上で、コミュニティに諮っていくのが良い。

・ICT 利用によって漢字の書き取りなどができなくなるのではないか？

・学校開放で下校時間の幅が広がってしまうのは難しい問題である。毎日 1 時間半ぐらい見守りをやっているが、児童が通っているのに見守らないわけにはいかずさらに見守り時間が伸びる恐れがある。

## 6. 次年度に向けて

項目	内容	○改善方策
	・学習規律の確立について	○学習規律の確立の課題について、年度当初から学校全体で統一的な施策を行う。
	・学校全体の人権意識の向上について	○今年度の校内研修は、今日的な人権課題として LGBTQ を取り上げた。心がけたのは研修のままで終わらせず、学校としての行動変容につなげていくこと。人権部が作ったガイドラインに沿って行動し、来年度さらに明らかになった課題を継続して改善していくとともに、保護者にも同じ認識を共有していく。
	・地域コミュニティ等からの支援の促進について	○地域コミュニティへの支援を期待する事項をまとめて相談するとともに、教職員代表との懇談も検討する。

### ■添付資料■

- ①学校評価結果の公表資料(保護者や地域住民等に公表した学校だより等)
- ②職員会議、校内研修会等、職員を対象に作成した資料
- ④ その他、必要と思われる資料